

4 第一回自己評価の実施並びに分析・まとめ

第一回目の自己評価は、7月末から8月初旬に行いました。認定こども園に関わりのある全職員(幼稚園教諭・保育士・栄養士・事務・児童指導員)を対象に行いました。「幼児との関わり」等職種によっては書き込めないところは、読んで確認するだけでも行いました。

第一回目の自己評価の結果を集計・分析・まとめてみたところ、園で様々な活動を実施していても、他と比較することなどが少ないため、正しく評価できずに自分の保育に自信が持てない傾向が高いことがわかりました。教育課程の中に定着しているがゆえに、その意義について改めて考える機会が少なかったようです。

延長(預かり)保育・一時保育は、評価項目に載っていないことにも気づき追加することとしました。

分析・まとめは、自己評価の記述部分の「よく出来ていると思ったこと」「これからの課題と思ったこと」を中心に分析し、担当者が気づいたことをまとめ、園内委員会等で検討し全体のまとめを作成していきました。

この時点での分析・まとめは、次ページ以降をご覧ください。



《自己評価シートのおまめ》

I 保育の計画性

この項目でよく出来ていると思ったこと (園の理念・方針から指導計画作成) ・計画立案時に目的・ねらい・内容を検討することから始まり、環境設定や配慮事項を書き出し、評価・反省まで行う事により、園の理念・方針について理解が深まっている (環境構成) ・楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込めるように遊具や用具、素材など質・数量を配慮している ・子ども達の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている ・異年齢の幼児が食育も幼児教育の重要な部分を占めていることを理解し、季節の変化等が楽しめる計画を立てている(栄養士) (指導的立場)	この項目でこれからの課題と思ったこと (環境構成) ・幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動に応じて環境の再構成をしている (評価・反省) ・お互いに保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている ・指導はしているが「理解しているか」「できているか」の確認までは不十分である (指導的立場) ・形だけのものではなく保育の中で活かしていくために園内研修や行事の会議の際に振り返ることが必要である
担当者がこの項目で気づいたこと ・前回から見ると、園の教育理念や方針・教育要領・保育指針を理解して指導計画を作成しているようである。特に、子どもの姿を現わしてからは確認がしやすくなっていると思う ・幼児の状況を把握しなが行なっている。しかし、活動の展開に応じての再構成がまだ不十分と感じている職員が多い ・指導的立場の職員から指導まではできているが、きちんとできているかどうかの確認作業やその後のフォローしきれいなという反省があった	担当者がこの項目で気づいたこと ・前回同様、幼児のかかわりでもスキミングやコミュニケーションを多くとること、話をよく聞くようにすることはどの職員も日頃から配慮できている。その反面、ごく基本的なことしか意識できておらず、そこから幅を広げるなど先には進めていない様に感じる。 ・前時間も時間に余裕がなく、子どもを急がせたり、保育者同士での情報交換がなかなかできていないと感じる職員がほとんどであった。以前よりは職員会議や朝礼で細かく伝達事項を伝えられる様にはなっているが、職員を見ていると積極的に時間を作ろうとしたりという意欲は低い。 ・指導的立場の職員から、保育者のよく出来ている所を伝えるという面が欠けているという反省が多かった。 ・担任と副任の間でも連携がうまくとれていないことがある。
全体のまとめ ・園の教育理念や方針を理解して、指導計画が作成できるようになってきた。また、評価・反省も毎日の保育の子どもの姿を看取った上で行えている。しかし、環境の再構成という部分では、子ども達の思いや発送を活かして活動を発展させるところまでは至っていない ・今後は、更に指導的立場の職員からのフォローを充実し、担任・副担任の連携を深め子ども達の活動が発展するよう心がける	全体のまとめ ・全般的に幼児のかかわりでもスキミングやコミュニケーションなどは多く取るよう配慮できている。 ・保育者同士の連携としては、話し合いの場の確保、話し合う内容とポイントの絞り込み方、時間の有効利用を各保育者が意識する。

《自己評価シートのおまめ》

II 保育の在り方、幼児への対応

この項目でよく出来ていると思ったこと (指導とかかわり・心のよりどころとして) ・幼児との温かなやりとりやスキミング、コミュニケーションを常に心がけていた。 (指導的立場) ・幼児のありのままの姿を看取ることと内面を理解しようとしている。 ・全体的に子どもに対しては真しに向き合おうとしている。 ・特に健康面への配慮、対応は常に見落とさない様子を配っている。	この項目でこれからの課題と思ったこと (保育者同士の協力・連携) ・クラス会議や担任、副任だけの話で終わってしまい、他の保育者に伝える事がおろそかになっている。 (遊び・活動の援助者として) ・時間に余裕がなかったり、計画が不十分でつい子ども行動を急がせてしまう。 ・園に来ることが楽しくなる様な登園の受け入れができていない。
担当者がこの項目で気づいたこと ・前回同様、幼児のかかわりでもスキミングやコミュニケーションを多くとること、話をよく聞くようにすることはどの職員も日頃から配慮できている。その反面、ごく基本的なことしか意識できておらず、そこから幅を広げるなど先には進めていない様に感じる。 ・前時間も時間に余裕がなく、子どもを急がせたり、保育者同士での情報交換がなかなかできていないと感じる職員がほとんどであった。以前よりは職員会議や朝礼で細かく伝達事項を伝えられる様にはなっているが、職員を見ていると積極的に時間を作ろうとしたりという意欲は低い。 ・指導的立場の職員から、保育者のよく出来ている所を伝えるという面が欠けているという反省が多かった。 ・担任と副任の間でも連携がうまくとれていないことがある。	担当者がこの項目で気づいたこと ・前回同様、幼児のかかわりでもスキミングやコミュニケーションを多くとること、話をよく聞くようにすることはどの職員も日頃から配慮できている。その反面、ごく基本的なことしか意識できておらず、そこから幅を広げるなど先には進めていない様に感じる。 ・前時間も時間に余裕がなく、子どもを急がせたり、保育者同士での情報交換がなかなかできていないと感じる職員がほとんどであった。以前よりは職員会議や朝礼で細かく伝達事項を伝えられる様にはなっているが、職員を見ていると積極的に時間を作ろうとしたりという意欲は低い。 ・指導的立場の職員から、保育者のよく出来ている所を伝えるという面が欠けているという反省が多かった。 ・担任と副任の間でも連携がうまくとれていないことがある。
全体のまとめ ・全般的に幼児のかかわりでもスキミングやコミュニケーションなどは多く取るよう配慮できている。 ・保育者同士の連携としては、話し合いの場の確保、話し合う内容とポイントの絞り込み方、時間の有効利用を各保育者が意識する。	全体のまとめ ・全般的に幼児のかかわりでもスキミングやコミュニケーションなどは多く取るよう配慮できている。 ・保育者同士の連携としては、話し合いの場の確保、話し合う内容とポイントの絞り込み方、時間の有効利用を各保育者が意識する。

《自己評価シートのおまめ》

III 保育者としての資質や能力・良識・適性(保育者：幼稚園教諭と保育士の総称)

<p>この項目でよく出来ていると思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家としての能力・良識・義務 ・幼思や保護者との対応には公平さを欠かない。 ・挨拶は、明るく親しみをこめて行っている。 ・職務上、知りえた情報などの秘密を守っている。 ・服装、身だしなみなど、清潔感のあるものをこころがけている。 <p>(指導的立場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導と助言をしている。 ・守秘義務の重要性を日頃から指導している。 <p>この項目でこれからの課題と思ったこと</p> <p>(能力、義務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識や技能を身につける、教育に関する情報を携えるなど、向上心を持つ。 ・仕事の手順、判断力が不十分である。 <p>(指導的立場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要書類の持ち出し、所定置に戻し管理するなど、園の書類管理を明確にする ・各職員が能力より業務が行えるよう、解りやすい業務の提示、しくみ作りが必要である。 <p>担当者がこの項目で気づいたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく挨拶をする、感謝の気持ちを持つ、公平さを欠かないよう対応する等、日ごろからの保育者もこころがけている。 ・保育者としての知識や技能、仕事内容を振り返り、さらにレベルアップをしたいという意欲をもつものがあった。 ・ほとんどの保育者が、職務上、知りえた情報は他に知らずこのことのないように特に気をつけて配慮していることと自己評価していたが指導的立場からいうと書類などの管理については課題がある。 <p>全体のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者としての仕事の手順、判断力を身につける。 ・専門知識を身につける。 ・指導的立場の人が、判断力、手順をホローしながら育成していく。
--

《自己評価シートのおまめ》

IV 保護者への対応・指導、守秘義務

<p>この項目でよく出来ていると思ったこと</p> <p>(情報の発信と受信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭へ向けて、一人ひとりの子どもの様子を把握し、伝えるよう心がけている。 <p>(守秘義務の遵守)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の仕事にかかわる者の常識として、守秘義務の遵守の重要性を理解し、しっかりと守るよう心がけている。 (対応上のマナー・良識) ・保護者からの依頼や伝言については確実に伝えられるように、メモに残し、口頭でも伝えるようにしている。 <p>(指導的立場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者から要望・意見等あったときには、園長の指導のもと迅速に対応し、園全体で対応できるように周知している。 <p>この項目でこれからの課題と思ったこと</p> <p>(情報の発信と発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスだより等で、子どもの様子を分かりやすく伝えていくことは、自分にとって毎回の課題である。 (協力と支援) ・保護者に説明できるほどには苦情解決システムについて理解していない。 <p>(指導的立場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守秘義務の内容について、職員間で理解に差があるため、全員に周知できるように指導が必要である。 <p>担当者がこの項目で気づいたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信と受信については、保育者の自己評価は低めであった。保護者との情報交換の重要性を認識しているからこそ、自己評価結果には厳しく反映しているともいえる。しかし実際には、保育参観・個人面談・行事アンケートなど情報を発信・受信する機会が多い。 ・一部職員による連絡事項の伝達ミスがあり、保護者に不快な思いをさせてしまった。正確・確実な伝達システムの重要性について全体で再確認する機会となった。 ・苦情解決システムについては、再度全職員に対し周知する必要がある。 <p>全体のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信と受信には、子どもだけでなく、保護者自身を理解しようすることが必要である。 ・電子データ・ファイル等の管理のために、持ち出し届出用紙を作成したので、定着するよう指導していく。持ち出した場合すぐ分かるように、保管の仕方を改善する。

《自己評価シートのもとめ》

VI 研修と研究

<p>この項目でよく出来ていると思ったこと (自らを高めるための学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者自らを高める為の趣味を大切に生活がうるよう努力をしている。 (今日的課題に関する研修と研究) ・保育者自身が自ら課題を掲げて、学習したり情報収集に努めている。 <p>(指導的立場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修・ポランティア活動の充実が心にかけている。 ・最近の情報について情報を収集するよう心にかけている。 ・園内研修・園外研修とも充実しており学ぶ機会は十分にある。
<p>この項目でこれからの課題と思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修・研究となると果たしてそこまで掘り下げた考え方をしているか疑問に思う。 ・職員同士の連携のあり方について課題と感じ、日常的に話し合いの場が必要と感じている。 (栄養士) ・自分の能力を高める必要性を感じているが、日常の中で出来ない。 (栄養士) ・専門外の知識不足を感じ自ら学習しなければいけないと感じた。 (栄養士) <p>(指導的立場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修項目に対して職員全員で共通理解する場と時間の工夫が必要。 ・保育者同士の連携や園内環境の研究が課題である。
<p>担当者がこの項目で気づいたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回と比較し研修項目に保育者自身の課題を見出し、情報収集に心がける姿が現れている。 ・保育者同士の連携や情報の共通理解と時間の工夫があると感じている。 ・今回の文章の見直しをし(保育者の人間性が子どもに影響を与えることを理解し～)を付け加える事で、日常の趣味や学習に心がけ生活のゆとりにより心がけていく保育者が多い。
<p>全体のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェック項目を通して、研修する項目の幅を広げていくようにする。 ・保育者同士の連携の仕方を学ぶ必要性がある。
<p>チェック項目の変更の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前の「○○」という項目では、「研修・研究をしているか」という問いがハードルが高すぎる。そのため、「○○」を深める為に意識している」などに変更する。

《自己評価シートのもとめ》

V 地域の自然や社会とかかわり

<p>この項目でよく出来ていると思ったこと (地域の人とかかわり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他施設の保護者や利用者にも積極的に声をかけ、挨拶する様に心がけ、園外保育などで、地域の人々と明るくあいさつや会話を交わすよう、どの職員も心がけている。 <p>(指導的立場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習生や中高生のポランティアの受け入れを行っている。 ・気軽に小学生が遊びに来る場となっている。
<p>この項目でこれからの課題と思ったこと (地域との連携、支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画には載っているが、十分に理解していない職員もいる。 ・小学校とは、情報交換の場はあるが十分に利用されていない。 ・実習生やポランティアを受け入れる目的と意義を理解していない時がある。 <p>(指導的立場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者以外の保育者が子育て支援事業のポイントを共通理解すること。
<p>担当者がこの項目で気づいたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生・デイサービス・学童との合同事業など日常的に多くの地域社会と交流をしている。 ・地域の自然との関わりでも、冬のスキー教室や畑で作物づくりから始める子ども料理教室など取り入れた保育を行っている。 ・しかし、活動は行っていても地域の自然や社会との交流に気づいていない職員がいた。
<p>全体のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の中で、高校生交流、DS交流、スキー教室、畑での作物づくりから始まる子ども料理教室などは定着している。 ・今後も無理のないよう無駄をはぶいた計画を立て、保育に取り入れていくことが大切である。

《自己評価シートのおまめ》

Ⅶ 保育の在り方、3歳未満児への対応

<p>この項目でよく出来ていると思ったこと (健康と安全への配慮) 受け入れの際の個々の状態の把握、保育中の子どもの変化や表情などに気を配るよう努力している。 (乳幼児の看取りと理解) 子どもが安心感を持てるような動きかけや触れ合いに心がけている。 個々にあった関わり方を把握し実行している。 指導的立場から健康・安全に心配りし個々の把握に心がける指導や、乳幼児の看取り、個々にあった対応を心がけるよう指導をしている。</p>
<p>この項目でこれからの課題と思ったこと (乳幼児の看取りと理解) 個々の発達にあった保育内容の展開が出来ていない。 (遊び・活動の援助者として) 禁止語を使わない肯定的な子どもの見方が出来ていない。 (保育者同士の協力・連携) 主活動時の異年齢児クラスとの関わり方の持ち方が課題 職員間の連携が不十分であり、個々の対応がまちなま、職員間の情報の共有化に勤めたい。</p>
<p>(指導的立場) 異年齢との触れ合う場を持つるよう環境作りや保育の工夫が必要。 他クラス(3歳以上児と未満児)の子どもの様子を伝え共通理解をするよう指導しているが不十分である。 日々の遊びの工夫が課題で現場での具体的な指導が必要。</p>
<p>担当者がこの項目で気づいたこと ・健康・安全への配慮では職員間の共通理解がされている為、こまやかな配慮がされている。 ・個々にあった配慮はなされている。しかし発達過程をもとに配慮されているかについて課題を感じる。 ・異年齢児との触れ合う環境作りや職員との情報共有化に課題を感じているようだが、実際に行われていると感じた。</p>
<p>全体のまとめ ・発達過程を意識した保育内容の展開の充実を図る。 ・自園で実際に行われている異年齢交流のあり方を自覚すること必要である。</p>

《自己評価シートのおまめ》

Ⅷ 子育て支援

<p>この項目でよく出来ていると思ったこと (環境設定) 担当者を中心に各講座ごとに検討を重ね、利用者にとって魅力ある環境となるよう工夫している。 (支援の姿勢) ・子どもも親も親しみやすい雰囲気づくりを心がけ、笑顔で積極的に話しかけるようにしている。 ・利用者同士の仲間づくりを促し、より楽しく過ごしていただけたよう配慮している。 (育児相談) ・保護者から質問や相談等あれば、担当者と話し合い、適切な対応を取るようになっている。 ・相談しやすい環境を作り出せるよう、相手が安心して話せるよう心がけている。 (支援の評価・反省) ・利用者からの要望にあわせて講座内容及び定員等を調整し、支援ニーズに沿った運営を心がけたことにより、昨年度に比べ今年度は利用者が倍増している。</p>
<p>(指導的立場) ・子育て支援について、担当者以外の職員の理解を深めようと努力している。</p>
<p>この項目でこれからの課題と思ったこと (育児相談) ・自信を持って育児相談を受けるには、知識経験が不足しているため、勉強が必要である。 (支援の評価・反省) ・自園の子育て支援について、保護者や利用者説明できるほど理解できていない。</p>
<p>(指導的立場) ・特定の担当者に頼りすぎしており、協力・分担が不十分である。</p>
<p>担当者がこの項目で気づいたこと ・子育て支援担当者以外の職員からは、このチェックリストを行うことで、園の一員として自園の子育て支援の内容を説明・紹介できるようになることを求められていると気づいたという意見が多くあった。 ・より良い子育て支援を実施したいと考えると課題がたくさん見えてくるため、子育て支援担当者の自己評価は厳しくなる。しかし、現状の講座メニューは大変充実しており、利用者数も順調に伸びてきている。客観的に正確なニーズを把握するために、利用者アンケート等を実施するのも良いと感じた。</p>
<p>全体のまとめ ・子育て支援担当者から、職員が共通理解をもてるよう、全体に向けて分かってやすく具体的に内容を紹介していく必要がある。 ・より良い子育て支援事業とするために、職員間の協力・分担内容を明確にし、日常の保育と連動させて内容を向上させていきたい。</p>